

白比川水系河川整備基本方針

平成13年7月

沖 縄 県

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る 川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため 必要な流量に関する事項	5
(参考図)	
白比川水系図	6

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

白比川は、沖縄本島中部地区に位置し、その源を北中城村南部に発し、北谷町内を流下し、途中で支川の新川を合流して東シナ海へ注ぐ、流路延長3.0km、流域面積8.27km²の二級河川である。

気候は、亜熱帯海洋性気候に属し、降雨は梅雨期と台風期に多く、年平均降水量は約2,000mm、年平均気温は約23℃である。

白比川流域は、沖縄市、北谷町、北中城村の3市町村にまたがっており、流域の36%を米軍基地が占めるとともに、戦後の米軍基地建設及び民間の住宅建設にともない市街化が進んでいる。このうち流域の最も下流に位置する北谷町内には住宅及び商業施設や学校、公民館、運動公園などの公共施設があり、広大な米軍基地が所在する同町において重要な生活空間となっている。また、下流左岸米軍基地内の丘陵地には地域の歴史的・文化的象徴である北谷城跡が位置している。

白比川の治水事業は、昭和48年より河道拡幅等が着手されたが、河口より白比橋までの改修にとどまっている。このため白比橋より上流の未改修区間は河道断面が小さく、昭和60年8月5日から14日にかけての台風8号、9号では宅地や道路などに洪水被害が発生し、また、平成2年5月、平成3年7月、平成11年9月の台風等により近年、毎年のように被害が発生している。

河川の利用については、昭和25年頃までは洗濯や水浴び等の生活用水として利用されていたが、現在は水道の普及により生活用水としての利用はなく、新川合流点直下流で米軍が雑用水として約300m³/日を取水している。また、合流点周辺は子供たちの川遊びの場となっている。

源流から国道330号に至る上流域は、米軍基地内を流下し、琉球石灰岩からなる沿川の崖斜面にはアカギやハマイヌビワ、リュウキュウマツ等が生育している。河道は自然河岸で小川の様相を呈し、流れのゆるやかな淵にはキバラヨシノボリやアオバラヨシノボリ等の清流に見られる魚類が生息し、水辺にはカワセミ、リュウキュウヨシゴイ等の水鳥が生息している。

国道330号から新川合流点までの中流域は、河川沿いに耕作地が広がり、河岸には湿潤な環境を好むアカギや石灰岩地を好むヤブニッケイ等が生育している。河道は主として自然河岸で透水層の琉球石灰岩と不透水層の島尻泥岩の境目が露出している箇所からは地下水が湧出している。河床には大小さまざまな転石が点在し、瀬・淵が交互に連続して形成されている。淵には甲殻類のコンジテナガエビや魚類のアオバラヨシノボリ、オオウナギ等の水生生物が生息し、転石の下や河岸岩礫部は甲殻類のモクズガニや魚類の餌となる水生昆虫等の生息場となっている。

新川合流点から変電所付近までの下流域は、沿川に宅地や米軍基地が近接しており、河道はブロック積み護岸又は石積み護岸となっているが、自然河岸が残る取水堰周辺には、アカギやハマイヌビワ等からなる河畔林が生育し、河床には巨石が分布しており良好な河川環境が形成されている。堰上流の淵には流れのゆるやかなところを好むハゼ科のキバラヨシノボリやアオバラヨシノボリが生息している。また、堰下流の砂礫からなる河床には瀬・淵が連続して形成され、魚類のオオクチユゴイや甲殻類のヒラテナガエビ等が生息している。

変電所付近から河口に至る感潮域は、沿川に宅地や米軍基地が近接し、改修の完了している白比橋から河口にかけては商業地が広がっている。河道はブロック積み護岸又は石積み護岸となっており、汽水域に生息するボラ、ゴマフエダイ等の魚類が生息している。石積み護岸の隙間は甲殻類のオオヒライソガニ等の生息場となっている。

河川の水質は類型指定されてなく、白比川本川でBOD75%値が平成12年で2mg/リットル以下となっている。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

白比川水系の地域住民からは、洪水に対する不安の声が上がっていると同時に、白比川の本風景から、今後の河川整備のあり方として動植物等の自然環境の保全や景観性、親水性に配慮した整備が望まれており、白比川水系の課題としては、河川の流下能力不足に起因する洪水被害の防止、良好な河川環境の整備・保全等が挙げられる。

これらを踏まえて白比川の河川整備にあたっては、

- ①洪水からまちを守る。
- ②良好な河川環境と親水性を有する潤いある水辺環境の整備と保全を図る。
- ③沿川住民に、環境学習の場、身近な自然と触れ合える場を提供する。

を基本理念として、河川整備を進めていくものとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、過去の災害実績や想定氾濫区域内の資産規模等を考慮し、30年に1回程度の降雨により発生する洪水を安全に流下させることを目的として河道の整備を行うとともに、台風による高潮にも対処する。

これらに加えて、計画規模を上回る洪水に対してもできるだけ被害を軽減するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の充実に努めるとともに、洪水流量の増大防止のための山林保護など、総合的な洪水被害軽減対策を関係機関や地域住民と連携して推進する。

河川の適正な利用については、河川をレクリエーションや身近な環境学習の場として、また、人と川との豊かなふれあい、憩い、潤いの場として活用できるような水辺空間の創出を図る。さらに、流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、流量観測及び動植物等の調査を行い、その把握に努める。

河川環境の整備と保全に関しては、治水、利水との調和を図りながら、動植物の生息・生育環境及び良好な景観の整備と保全を図る。特に生物にとって良好な生息・生育場所である中流区間等の自然河岸や瀬・淵についてはその整備と保全に努める。

維持・管理に関しては、河川管理者による河川機能の維持の他、地域住民やこれまで白比川において活動を続けている河川愛護団体などの関係機関との連携・協力による維持管理の体制づくりに努めるものとする。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

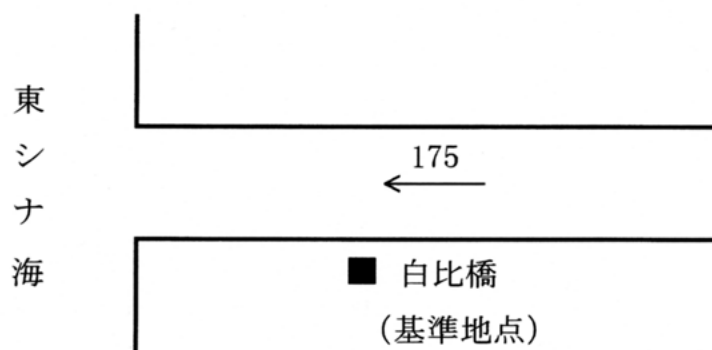
基本高水のピーク流量は、30年に1回程度の降雨で発生する洪水について検討した結果、基準地点白比橋において $175\text{m}^3/\text{sec}$ とし、これを河道へ配分する。

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	河道への配分流量
白比川	白比橋	$175\text{m}^3/\text{sec}$	$175\text{m}^3/\text{sec}$

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、基準地点である白比橋地点において $175\text{m}^3/\text{sec}$ とする。



白比川 計画高水流量配分図 (単位： m^3/sec)

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅は次の通りとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 N. P. (m)	川幅 (m)	摘要
白比川	白比橋	0.25	+ 1.47	24	基準地点

N. P. : 那覇港中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

白比川の流水の正常な機能を維持するための必要な流量については、流量観測、動植物等の調査を実施し、動植物の保護、流水の清潔の保持等について検討を行ったうえ、設定するものとする。

(参考図)白比川水系図

